

〈令和5年度の取組〉

新しい働き方推進環境整備事業・新しい働き方拠点運営事業

小田原市

令和4年9月にオープンした「Work Place Market ARUYO ODAWARA」では、起業準備者、事業者、企業が集うコミュニティを形成し、交流イベントやビジネス相談窓口を設置し、賑わいや新たなビジネスを創出している。



令和5年度実績(令和6年1月末時点)

会員:51

※会員制コワーキングも併設

拠点利用数:5,473名

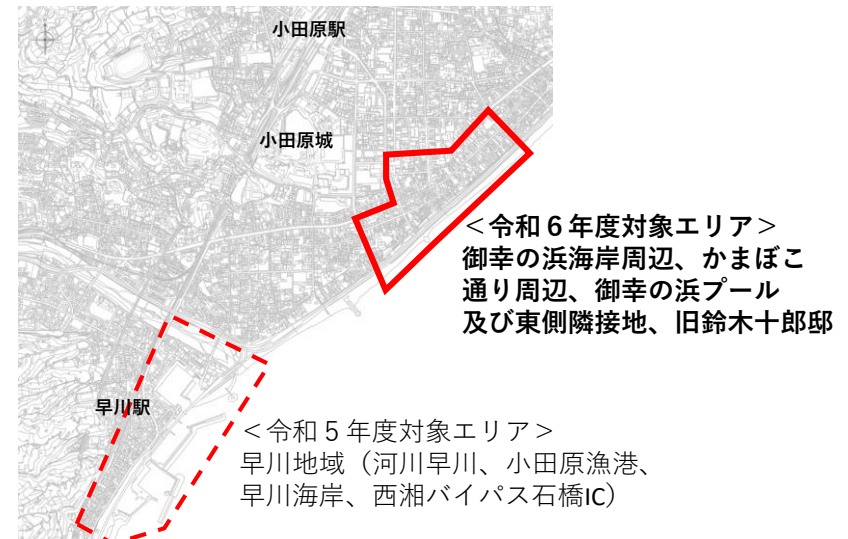
ビジネス相談数:174件

イベント開催数・参加者:81回・2,180名

〈令和6年度の取組〉

エリアブランディング構想策定事業

地域特性を生かしたまちづくりに関連する施策を連携させ、効率的かつ面的なまちづくりを推進するため、地域住民や商業者をはじめ多様な関係者等へのヒアリングやニーズ調査を行い、エリア全体の価値向上に繋がる事業スキームや活用イメージが共有できるエリアブランディング構想(全体構想)を策定する。



○産業用地創出事業

- ・「足柄産業集積ビレッジ構想」の推進

○未病改善等関係事業

- ・未病改善等健康づくり事業
 - ・健康ウォーキング普及事業 等
- ⇒ 民間企業と連携した「未病改善講座」や
アプリを利用した「ウォーキングイベント」を開催



令和6年度の主な取組予定

<定住促進と人口増に向けた取組>

○子育て支援の充実

- ・誰もが楽しく、健康的に過ごせる「外遊びの場の整備」
- ・市内小中学校における「給食費の無償化」
- ・子どもたちが安心して過ごせる「新たな居場所づくり」の検討

○南足柄版アウトドアレジャーの魅力発信

- ・「足柄三山ミーティング」といったアウトドアイベントや
YouTubeなどにより地域の魅力を発信し、関係人口を創出

⇒ 「選ばれるまち 住み続けたいまち」を目指す



未病改善・健康増進プロジェクト／スポーツプロジェクト



未病改善・健康増進プロジェクト

未病センターに新たにトレッドミルを設置
モニターに中井町や世界中の映像が流れ、実際に走ったり歩いたりしているような体験が可能

→ 定期的な利用者や比較的若い世代の利用が増加し、未病の改善に貢献



スポーツプロジェクト

コロナ禍を経て、4年ぶりの本格開催となったなかい健康スポ・レク祭やノルディックウォーク、テニスのつどい等を実施、合わせて総合型地域スポーツクラブの設立支援を行った

→ 運動機会を提供、地域スポーツの担い手育成、関係人口の創出に寄与

地域のオタカラ再発見事業／竹害対策事業

地域のオタカラ再発見事業

郷土資料館収蔵品の再整理とデジタル化及び町無形文化財「鷺の舞」を含む五所八幡宮例大祭を映像に収めることで、地域の魅力を広く発信し、町に対する誇りや愛着心を育む

竹害対策事業

周辺農地や生活環境に影響を与えている放置竹林の整備や有効活用に向け、意識醸成のための講習会や竹害整備の研修、竹林の現状調査を行うことにより、持続可能な地域づくりを推進する



令和5年度の県西地域活性化プロジェクト ～交流体験事業の担い手拡大及び地域育み事業～

大井町

『交流体験事業の担い手拡大及び地域育み事業』

● 地場産マルシェ創出事業

町内の農家が軒下で行っている点在した地場産野菜販売所を集約するなど、マルシェの定期的な開催

マルシェの定期的な開催 月2回開催

● 交流体験事業担い手拡大・地域育み事業

交流体験事業の担い手として町内外を対象に幅広く指導者の養成を行い、交流体験事業の拡大を図る

自然体験活動指導者講習会の開催 16名受講・修了



▲【大井やさいの市】開催時の様子



▲大井やさいの市チラシ

令和6年度の主な取組

『農ある暮らしと新しいライフスタイル創出事業』

● 2拠点生活／地域での暮らし促進事業

空家を活用したシェアハウスを整備し、2拠点生活のモニター事業を開催。
滞在環境の整備とモニター事業を通じて、繰り返し来訪してもらう仕組みづくりを行う。

※「空家利活用促進事業」も実施予定であり、空家に対する効果的な施策を検討するために、現状把握として空家の実態調査を行う。

『未病改善普及イベント』

● 未病改善普及事業

未病改善と健康意識を啓発するとともに、未病の拠点施設「未病バレー『BIOTOPIA』」の周知を図るため、未病の改善を実践する参加型イベントを開催。



▲ME-BYOフェスタチラシ

令和5年度の県西地域活性化プロジェクトの主な取組名 (活性化イベントの開催、関係人口の創出、プロモーション動画作成)

松田町



- ✓ 地域住民や町外からの誘客を図り、地域活性化を推進するため、W杯で優勝した元なでしこJAPAN選手(5人)によるサッカー教室を開催。
- ✓ 世界一を経験した選手達の体験談やプレー、世界一のメダルのお披露目などを通じ選手達と交流。



- ✓ 町ブランド品「ユズ精油」のユーザーを中心に、畑での収穫作業から製造までの過程を体験するイベントを開催。
- ✓ 全4回、約100名が参加。
- ✓ 町ブランド品をきっかけに、町のファン（関係人口）の創出。



- ✓ 立花学園や東海大学の生徒・学生が参加し、西平畑公園の魅力を掘り起こすワークショップを開催し、計4本のPVを制作。
- ✓ 次世代を担う若者へ、関係人口の概念の普及・シビックプライドの醸成を図る。

(令和6年度の主な取組)

- ✓ 寄地区活性化推進事業
 - ・ 寄地区の観光拠点を核とした、観光客の受入体制を構築

- (寄地区における町独自の取組み)
- ✓ スポーツツーリズムの推進
 - ・ 運動広場の人工芝生化により、スポーツ選手・団体を地域に呼び込む

- ✓ 旧寄中学校（閉校）の利活用
 - ・ (仮称) 寄サスティナブルフードアカデミーとして活用
 - ・ 耕作放棄地の解消に向け、一次産業を新たな地域活性化エンジンに
 - ・ 「学び、共有、実践する」場を創造し人財育成を推進



《令和5年度の主な取り組み》

カヌーマラソンIN丹沢湖

223名参加（202艇）



丹沢湖マラソン大会

1,252名参加

ランニングポイントサービス

指定コースを走り、町有施設「さくらの湯」を利用した方にポイントを付与し、ポイントに応じた入浴無料券を進呈



《令和6年度の主な取り組み》



○空き屋見学ツアー・移住者交流会

山北町への移住や、田舎暮らしに興味をお持ちの方に山北町空き家バンクに登録されている物件の紹介、移住体験談、地域イベントを通して町の魅力を発信する。

○お試し住宅「ほたるの家」

山北町への移住希望者に対し、一定期間町に滞在していただく事で、町の風土や気候、生活スタイルの体感、地元の方との交流など、やまきた暮らしを体感してもらい、山北町の魅力を発信する。

令和5年度 県西地域活性化プロジェクトの主な取組



田舎モダン
開成町
kaisei town

□シティプロモーションの動画制作事業

○観光事業である、「開成町あじさいまつり」のプロモーション動画制作による町の魅力発信

□住民主体のフレイル予防事業

○□□モ予防教室など介護予防の普及啓発をし、フレイルチェックを各地域集会施設で実施

□ゼロカーボンシティ創成補助事業

○全国の市区町村初の取組として、国の住民向けの脱炭素補助金を住民に交付

<プロモーション動画～開成町あじさいまつり～>



令和6年度 県西地域活性化プロジェクトの主な取組

□部活動の地域移行推進事業

○こどものスポーツ・文化芸術活動を支える、持続可能な地域づくり

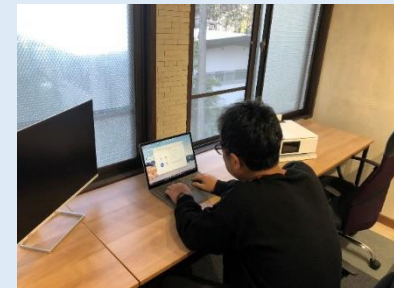
◆地域を巻き込んだ自立的な運営組織の確立

◆誰でも活動に参加し、継続できる環境の整備



▶滞在型サテライトオフィス(リモートワーク)体験事業

- ・空き家を活用し、宿泊をしながらリモートワーク体験ができる滞在型サテライトオフィスを整備し、主に法人を対象にしたトライアルステイを実施
- ・首都圏の法人、事業者の社員がグループで参加し、箱根の職住環境を体験



▶その他事業

・水泳教室の実施・水中運動プログラムの開発

水泳教室や水中運動プログラムを活用した方法で健康の維持を推進

・キャッシュレス収納

新しい生活様式に対応した納税システムを導入



令和6年度の主な取組

▶移住体験ツアー実施

移住を検討している町外在住者に向けて、現地での案内を行う移住体験ツアーを実施し、移住の促進につなげる。

▶移住促進動画等作成

移住を検討している町外在住者に向けて、箱根町の移住PR動画等を作成し、ホームページ等で活用していく。

住民協働による空き家バンクの推進

真鶴町

課題

平成29年に過疎地域に指定され人口減少（特に若年女性人口の減少）に直面し、令和元年度実施の空家調査においては568件の空家を把握。町内の働き場の開拓と空家問題の解決が求められていた。

取組1

平成29年度からサテライトオフィス誘致に着手し、商工会・観光協会・町内事業者で構成する官民連携の誘致運営協議会を立ち上げ、IT・IoT企業がオフィスを開設し、子育て世代の雇用等、新しい働き方が生まれている。

取組2

空家問題の解決には地元の協力が不可欠であることから、令和3年度から空き家バンク事業（県西地域活性化事業）を住民と協働するスタイルで稼働した。住民団体に空き家バンク業務を委託し、住民目線・住民の言葉での受付対応や情報発信、そして地元ネットワークを生かした空家物件の掘り起こしが始まっている。
（令和5年度実績：売却成立1/6件、賃貸0/1件）

取組3

町民向けの空き家勉強会を定期開催し、空き家バンク事業のみでは解消されない空家等を取りまく問題の周知や意見交換をしている。また、月1回町民主体で開催されている空き家勉強会の輪も広がり、町との情報交換も行い、空家解消に向けて取り組んでいる。



令和6年度の主な取組

- 多世代交流の推進を図るため、空家等の利活用による活動拠点の確保、多世代の学びや実践機会の確保、町の魅力発信の3つを主に掲げる。
- 令和6年度では、多世代交流の活動拠点を確保・整備するため、専門家等の協力を得ながら、空き家の発掘を行っていく。

多世代の居場所事業

- ・令和5年10月に駅前の拠点のリノベーションが完了し、「居心地のいい」「温かな雰囲気」に生まれ変わり、本格運用を開始。
- ・昼間は、町内外問わず多種多様な人たちが集まり、放課後にはこどもたちの居場所としても活用することにより地域コミュニティの活性化に繋がっている。

『人々が集いたくなる「場」と「関係」を形にし、「関係人口」を豊かに育む』



わかもの会議



こども食堂



移住に関するセミナー



駅前の拠点

令和6年度の取組

地域の魅力を住民が再発見する取組みを実施し郷土愛を醸成することにより、魅力の向上、地域コミュニティの強化を図り、移住者や関係人口の創出につなげる。

- ・湯かけまつり
- ・ほたるの宴
- ・伝統文化体験教室（お雛子体験、みかん収穫体験教室、お飾りづくり体験教室）
- など